

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：わかば保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：伊佐治 由紀	定員（利用人数）： 120名（利用人数：123名）	
所在地：〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町992		
TEL：045-823-1439	ホームページ： https://www.aragusakai.jp/wakaba	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和54年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人あらぐさ会		
職員数	常勤職員：25名 非常勤職員：14名	
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士：2名	
	園長：1名 看護師：1名	
	保育士：29名 調理師：3名	
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）	
	保育室：7室 園庭：あり	
	トイレ：7ヶ所	
	調理室：1室 事務室：1室	

③ 理念・基本方針

<保育理念>

- ① 私たちは、憲法と児童福祉法にもとづき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせて、より良い保育を進めていきます。
- ② 私たちは、子どもたちがのびのびと生活し、登園が待ち遠しくなるような魅力ある保育園づくりをめざします。
- ③ 私たちは、お父さん、お母さんが安心して働けるように支援し、地域の子育てに貢献します。

<保育目標>

- * 健康な子ども
- * 心ゆたかな子ども
- * 仲間を大切にし、自分も大切にする子ども
- * 仲間と一緒に考え、力を合わせる子ども
- * 自分のことは、自分でできる子ども

<保育方針>

- ・子どもたちの心と身体を健やかに育て、その可能性を引き出す生活と教育の場
- ・父母が安心して働ける保障の場
- ・職員が学び生き生きと働く場

そのために、

- ・職員と保護者は、子どもを中心に話し合い、よりよい保育をめざす
- ・法人役員は、それぞれの立場を尊重しながら、保育の充実をめざして運営する

- ・多様な保育要求に応えるために、産休明け保育・長時間保育・障がい児保育等を行う
- ・すべての子どもたちが、子どもたちにふさわしい保育条件の中で、生き生きと育つよう、地域の人たちと、手をつなぎ努力する

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・子どもたちがのびのびと主体的に遊べる環境づくりを大切にしていること。恵まれた自然環境の中、子どもたちは、園庭で自由に蛇口をひねり泥んこをしたり砂場に池を作って遊んでいます。乳児クラスの子どもたちもバケツに水を入れ砂や落ち葉、小石も一緒に手で混ぜています。靴を履くも履かないも自由で、ほとんどの子が裸足で走り回っています。また、週に一度は近所の神社や公園に散歩に出かけ季節を満喫することが出来ます。室内では、子どもが手の届く場所におもちゃや廃材が置いてあり自由に工作をしたり遊びを展開しています。また、体作りを大切に、子どもたちが自分の身体をコントロールしながら動かせることを目標にしています。食事素材の味を生かした薄味を心がけ楽しみになる献立作りをしています。
- ・家庭との連携を大切にするとともに子どもの成長を見守る関係づくりを心掛けていること。日常の出来事を書く連絡帳を入園時から使い子どもの成長を伝え合うツールとしています。それに加え壁新聞やクラスだよりなど個人の事はもちろんクラスで楽しんでいる事も伝えています。日々の保育の積み重ねである行事は、保護者、職員で目の前にいる子どもたちの成長と一緒に喜び合える日として大切にしています。また、年3回のクラス懇談会、年1回の個人面談を設けています。
- ・園内研修をはじめとした職員の技術や資質の向上に努めていること。外部研修は、一人ひとりが自分の求める内容の研修を受講しています。また、個人の経験をもとに園から提案する研修も受講しています。園内研修は、毎年内容を検討し、個人としての成長はもちろん集団としての課題をグループワークを主に行っています。この場では、経験やクラスを超えて自分の考えを伝え合い互いを知ることで、安定した人間関係が築かれ互いを助け合うチームとして保育にあたる事が出来ています。結果として離職率の低下に結びついています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月4日（契約日） ～ 令和6年3月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 充実した保育内容と主体性を大切に環境が設定されています

園は戸塚区の中でも自然環境に恵まれた地域にあります。園舎内は木造部分が多く、温かみのある空間となっています。全体的な計画の中に各年齢の“身体作りに関わる活動”が示され、リトミックや運動用具を多く使った活動が日々活発に行われています。制作コーナー、牛乳パックや廃材を使った手作り玩具、各年齢にあった玩具などは子ども自らが取り出し遊べる環境となっています。園庭も広く、水や土を使ったどろんこ遊びやボール遊びも盛んです。子どもの発達を助長する遊びや主体的に遊べる保育環境を大切に保育が展開されています。

2) 地域の関係機関、団体等と連携をして保育に取り組んでいます

区役所の所管課や地域療育センター、児童相談所、民生委員等の関係機関と継続的に情報交換を行い、問題解決に向けて協力して取り組んでいます。要保護児童対策地域

協議会にも参加して、子どもの虐待防止に取り組み、適切な保育サービスを提供しています。地域の社会資源の活用も積極的に進めています。子どもは近隣の公園で開催される「案山子まつり」や地域の芋掘り、梅もぎに参加しています。また、近隣の高齢者施設の利用者を園に招待して交流しています。玄関の棚には、地域の子育てに関する資料を置き、保護者に情報提供をしています。地域との関りの中で子どもたちは様々な体験をしながら成長しています。

3) 楽しく豊かな食事を提供しています

園には大きなホールがあり、食事の空間としてゆっくり落ち着いて食事ができる環境があります。食器、食具は年齢ごとに成長に合わせたものを用意しています。幼児クラスは、自分で適量の盛り付けをし配膳をしています。乳児は個々の発達の差を踏まえ、保育士が量の調節をしています。給食試食会を開いて保護者にも味の共有をして貰っています。食育の一環として、食育コーナーを設け、食材に触れたり、調理の下拵えを手伝う機会をもち、子どもたちの食に関する興味を深めています。日頃から食材に触れたり、本やお話しの中から食材に関する知識を深めています。また、月に1度「お弁当の日」を設け、保護者の理解、協力のもとに家庭からお弁当を持参してもらっています。子どもたちは給食とは違う特別な日として楽しみにしています。子どもが食に興味を持ち、楽しく食べられるよう取り組んでいます。

4) 中・長期の計画の策定が期待されます

中・長期の事業計画と収支計画の策定がありません。中・長期的な目標を明確にし、その目標を実現するためには何を実施していくのか、具体的な実施計画となる中・長期の事業計画の策定が期待されます。あわせて中・長期計画を進めていくうえで、その財務面の裏付けとなる中・長期の収支計画も期待されます。施設整備など単年度では解決できない事業について、中・長期的な計画に位置づけて取り組んで行く事が求められます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

項目ごとに細かく確認して頂き、取り組むべき課題や視点に対しての気付きとなりました。職員のグループ討議を行うことで、保育以外の運営の面にも視野を広げることができました。又、保護者アンケートにより、説明の不十分な所が分かり、今後、保護者に保育をより一層理解していただくための工夫を検討する機会となりました。今後も職員と話し合いを大切にしながら子どもを中心とした園運営に取り組みます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり